

【2022年卒 就職活動振り返り調査TOPIC】 「学びと経験」は「働く意欲」や入社決め手に影響する

就職先確定学生の振り返りから見る、学生時代の「学びと経験」の大切さ

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）のよりよい就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、企業・各種団体等への就職活動を実施した2022年卒大学生・大学院生を対象に、「就職活動振り返り調査」を実施いたしました。調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

「よく学び・経験する」ことが「働く意欲」につながり、自分自身や仕事の理解につながる



研究員 清水山 隆洋

就職先を確定した2022年卒学生に、就職活動開始時点の「学びと経験」についての意識と「働く意欲」を聞き、さらに就職活動時の動向を聞きました。

自分の学生時代の「学びと経験」を理解し、入社後の働くイメージにつながっていた学生は、「働く意欲」を十分認識していた傾向が見られます。そして「働く意欲」を十分認識していた学生は、自分自身や仕事への理解が十分であったと振り返り、入社決め手に、

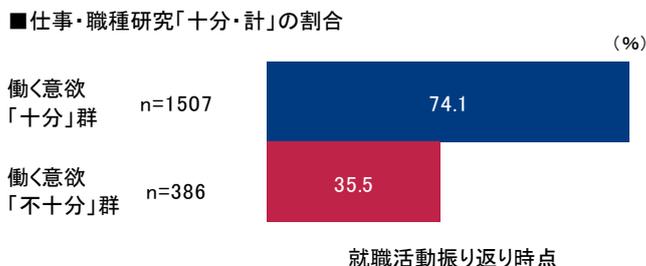
より企業の経営方針や将来性、仕事のやりがいを挙げる傾向が見られます。

学生時代の「学びと経験」を理解し、入社後の仕事につながるイメージを持つことが、学生自身の「働く意欲」を醸成し、自己・企業・仕事への理解の深まりにつながる。「働く意欲」が醸成されていることで、企業各社の経営や入社後の仕事内容に注目しながら就職先を決めていく…という関係性がありそうです。

この関係性は、学生時代のさまざまな学びと経験の機会の重要性を示唆しています。学生の皆さんは、日々の学業、課外活動等に目的意識を持ちながら取り組むことが大切です。

就職活動開始時点の働く意欲「十分」群・「不十分」群別 仕事・職種研究「十分」計の割合

（就職先確定者/単一回答）



本件に関する
お問い合わせ先

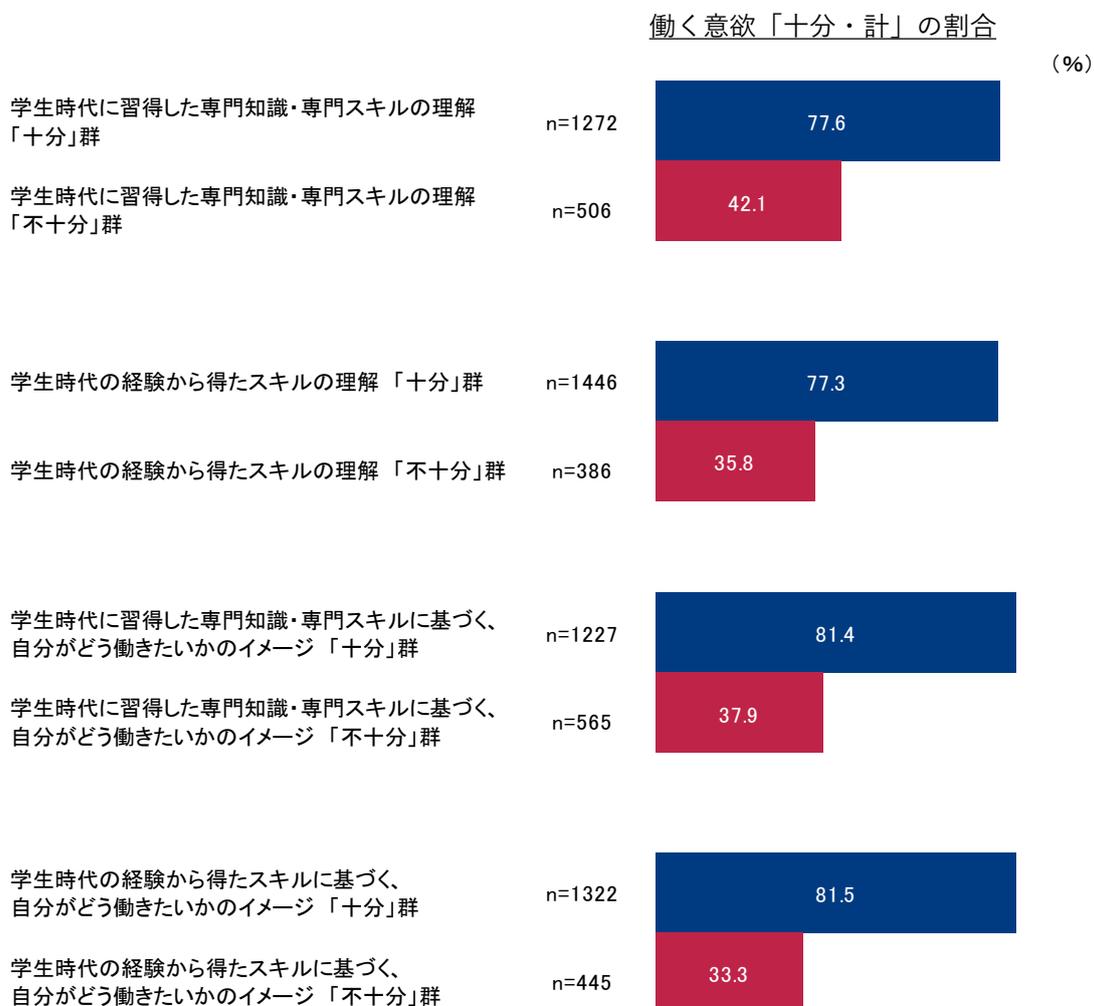
<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

学生時代の「学びと経験」の理解・入社後の仕事につながるイメージが十分と認識していた学生は、就職活動開始時の「働く意欲」も十分と認識していた割合が高い

就職活動開始時点の「学びと経験」の理解・「学びと経験」に基づく入社後の働くイメージに関する4項目について、それぞれ5件法（「十分」「どちらかというと十分」「どちらともいえない」「どちらかというと不十分」「不十分」）で聞いた結果を基に、「十分」群（「十分」「どちらかというと十分」と、「不十分」群（「どちらかというと不十分」「不十分」）に分けて比較した。

4項目それぞれ「十分」群では、就職活動開始時点の「働く意欲」について「十分・計」（「十分」「どちらかというと十分」）と回答しているのは8割前後であった。4項目それぞれ「不十分」群では、就職活動開始時点の働く意欲について、「十分・計」と回答しているのは4割前後であった。

■ 「学びと経験」への自己認識「十分」・「不十分」群別
就職活動開始時点の働く意欲「十分・計」の割合
(就職先確定者/単一回答)



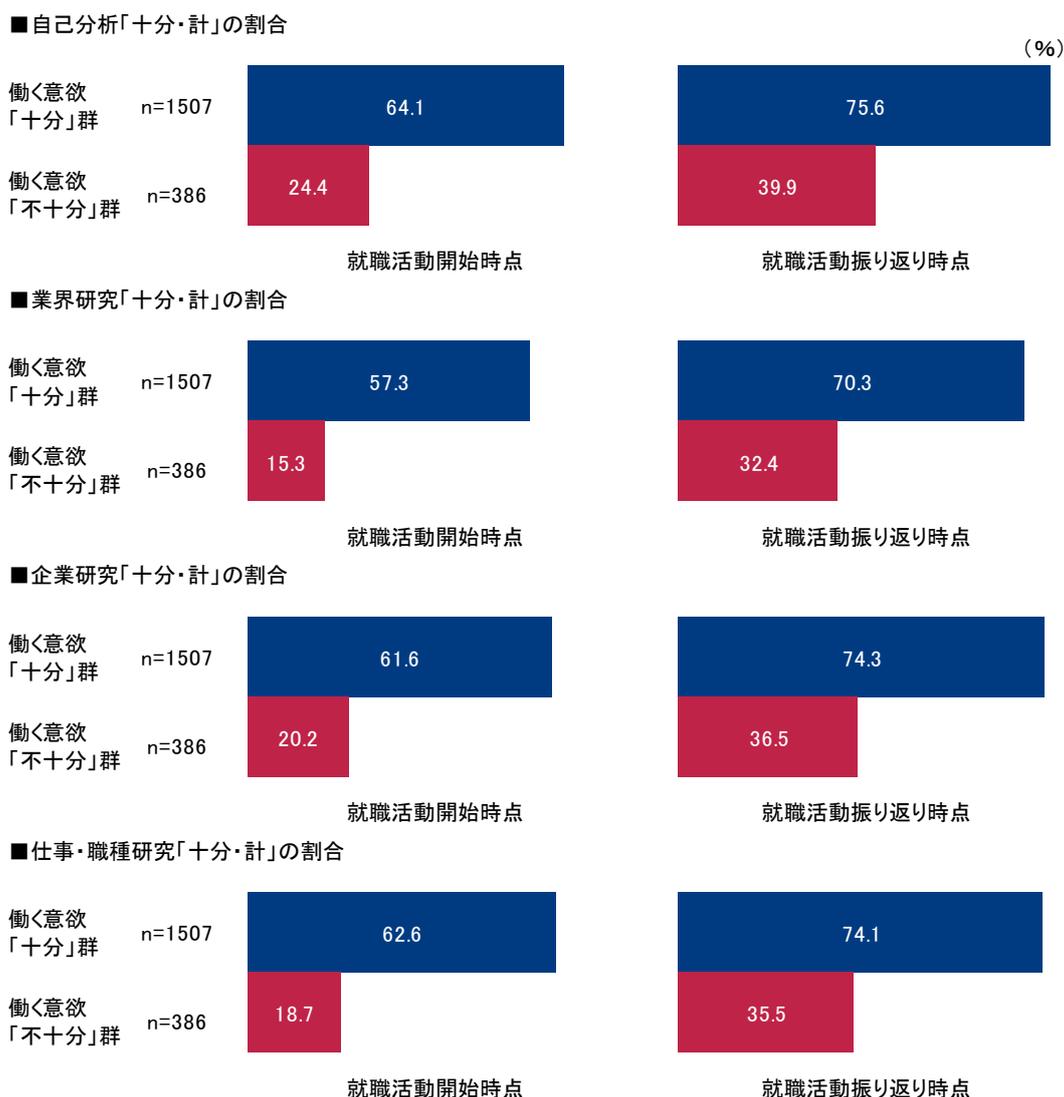
就職活動開始時点に「働く意欲」が十分と認識していた学生は、そうでない学生に比べ自己・企業・仕事への理解も十分と認識していた割合が高い

就職活動開始時点の「働く意欲」を5件法（「十分」「どちらかというと十分」「どちらともいえない」「どちらかというと不十分」「不十分」）で聞いた結果を基に、「十分」群（「十分」「どちらかというと十分」と）と、「不十分」群（「どちらかというと不十分」「不十分」と）に分けて比較した。

働く意欲「十分」群では、就職活動開始時点の自己分析、業界研究、企業研究、仕事・職種研究について、「十分・計」（「十分」「どちらかというと十分」と）と回答しているのは6割前後であった。就職活動振り返り時点の自己分析、業界研究、企業研究、仕事・職種研究について、「十分・計」と回答しているのは7割以上であった。

働く意欲「不十分」群では、就職活動開始時点の自己分析、業界研究、企業研究、仕事・職種研究について、「十分・計」と回答しているのは2割前後であった。就職活動振り返り時点の自己分析、業界研究、企業研究、仕事・職種研究について、「十分・計」と回答しているのは、就職活動開始時点に比べて上昇するが、4割に満たなかった。

■就職活動開始時点の働く意欲「十分」群・「不十分」群別自己・企業・仕事への理解「十分・計」の割合
(就職確定者/単一回答)



Ⅲ. 就職活動開始時点の「働く意欲」と入社決め手の関係

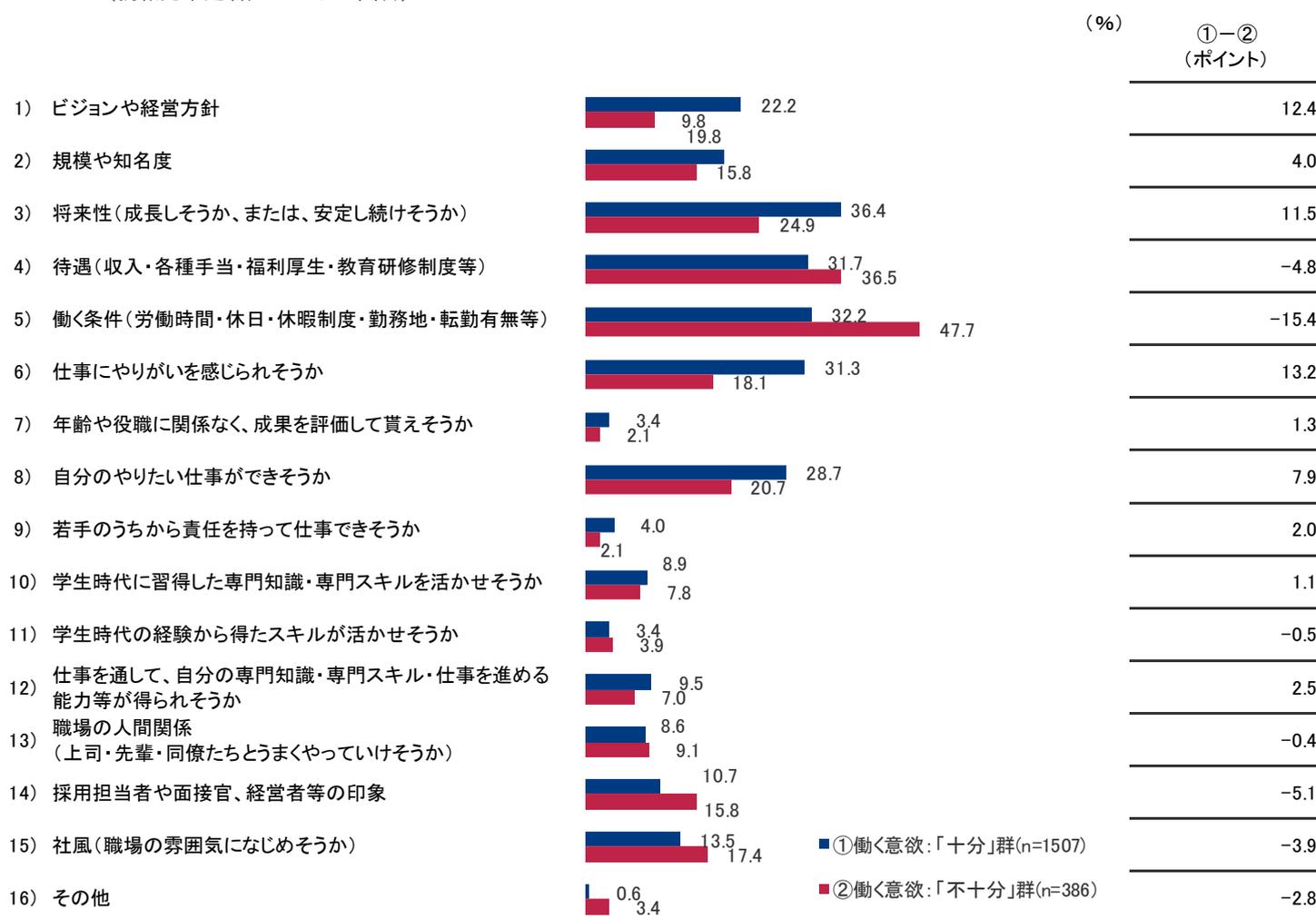
就職活動開始時点に「働く意欲」が十分と認識していた学生は、そうでない学生に比べ入社決め手として企業の経営方針・将来性、仕事のやりがいに注目する

就職活動開始時点の「働く意欲」の回答「十分」群、「不十分」群別に、入社予定の企業・各種団体等への入社決め手についての回答を見た。

働く意欲「十分」群の回答率が「不十分」群に比べて特に高いのは、「ビジョンや経営方針」「将来性」「仕事にやりがいを感じられそうか」といった項目であった。働く意欲「不十分」群の回答率が「十分」群に比べて特に高いのは、「働く条件」であった。

■働く意欲「十分」群・「不十分」群別 入社予定の企業・各種団体等への入社決め手

(就職先確定者／3つまで回答)



IV. 「働く意欲」と、就職活動開始時期との関係性

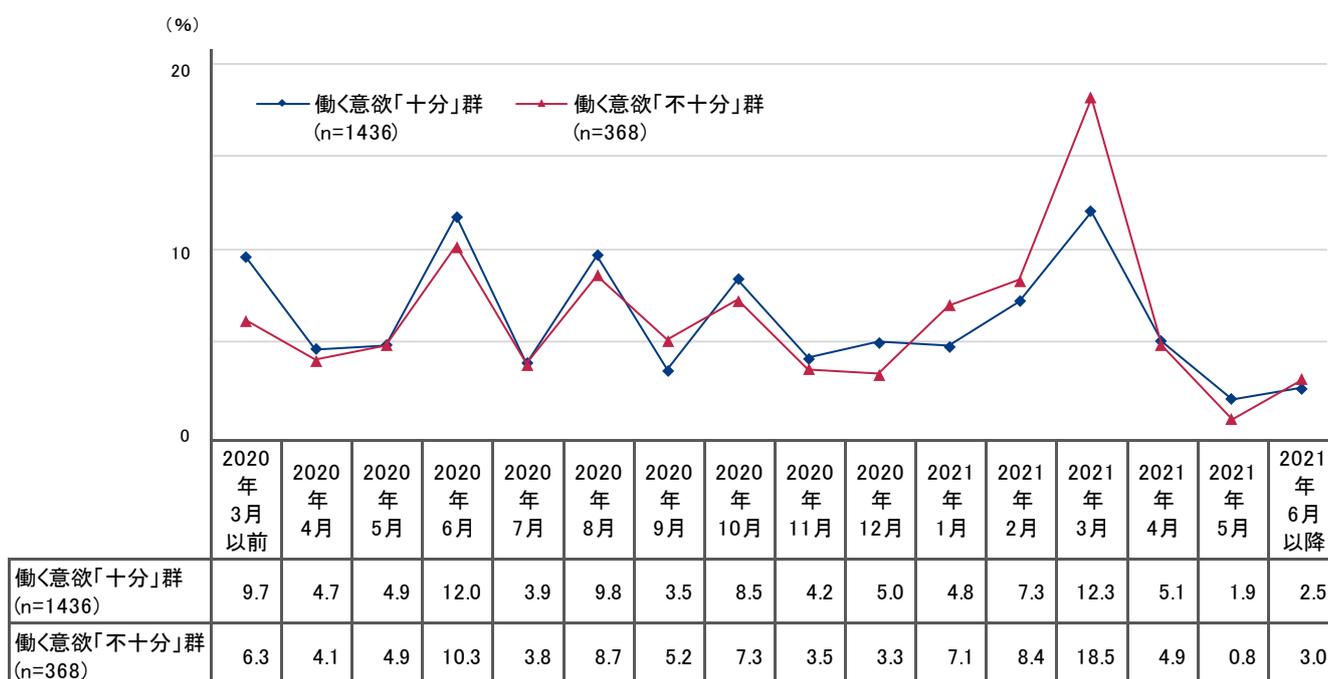
就職活動開始時点の「働く意欲」は、就職活動開始時期には影響していない

就職活動開始時点の「働く意欲」の回答「十分」群、「不十分」群別に、卒業・修了前年度の4月から卒業・修了年度の5月まで月単位で、就職活動開始時期の割合推移を見ると、差が見られる月はあるものの、全体の月別推移としては同じような動きをしている。

就職活動開始時点の「働く意欲」と、就職活動開始時期との関係性（例えば、「働く意欲」が十分な学生ほど早期に就職活動を始めているといった傾向。あるいは、早期に採用活動を開始することで「働く意欲」が高い学生との接点を増やすことができる可能性等）は、ほとんど見られなかった。

■働く意欲「十分」群・「不十分」群別 就職活動開始時期

(就職先確定者/実数回答)



調査概要

調査名称 | 大学生・大学院生の就職活動の振り返り調査 2022年卒
調査目的 | 大学生・大学院生の就職活動の振り返り実態を把握する
調査方法 | インターネット調査
調査協力 | 株式会社クロス・マーケティング
調査対象 | 民間企業等を対象に就職活動を行った、全国の大学4年生・大学院2年生の男女
調査期間 | 2021年11月24日～2021年12月1日
集計対象 | 有効回答2868人のうち、就職先確定者2512人

調査対象の抽出条件

インターネット調査のモニターにスクリーニング調査を行い、調査時点の学年と就職活動経験を確認。大学4年生・大学院2年生、かつ、民間企業等を対象に就職活動を行った学生を抽出。

上記学生に本調査にて、調査時点における2022年4月以降の進路確定状況を確認し、「民間企業に就職する」「民間企業以外（公務員、教員、その他団体職員など）に就職する」と回答した学生を「就職先確定者」と判別。

調査結果を見る際の注意点

○ %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある。

調査データ引用に関するお願い

【出典：リクルート 就職みらい研究所『〇〇〇〇（資料名）』】と明記していただければ、基本的にご利用いただけます。

ご利用に際しては必ず事前に下記URL（お問い合わせフォーム）よりご一報お願いいたします。

お問い合わせ：<https://rec.fofa.jp/rcasmk/a.p/115>

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人一人のライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、メディア&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、4万6,000人以上の従業員とともに、60を超える国・地域で事業を展開しています。2020年度の売上収益は2兆2,693億円、海外売上比率は約45%になります。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人一人が輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>